

平成23年度第3回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会
会議録【議事概要】

日時：平成24年2月21日（火） 午後6時半～午後8時45分
場所：船沢公民館中研修室
出席：澁谷リーダー、メンバー8名、共同研究関係者3名 計12名
欠席：2名
事務局：3名

- 1 開会（定刻）
- 2 企画課長あいさつ

- 3 前回会議録の確認
・事務局案により了解を得た。

- 4 作業
今回の作業内容について澁谷リーダーから説明し、意見交換を行った。
以下は主なやりとりについて記述。

（1）澁谷リーダーからの説明

- ・A3カラーの配布資料は、前回作成した各メンバーのマインドマップから、弥生跡地に関する部分を抽出して整理したもの。
- ・この土地を巡る認識として、大きくは「環境」、「活用」、「供用準備」、ここをどうしたいかという「夢」の4つが考えられる。
- ・今回は、もう少し枝葉を増やしたい。前回考えたことをもとに自分なりに枝葉を伸ばして、ポストイットに書いて黒板の大きな図に貼っていききたい。
- ・今は現地の話抜きにして、沢山の意見を出して広げていく。その上で現地に行けば、このアイデアはどこでやるのが良いかという話へつながるはず。

（2）懇談会メンバーによる意見交換

【堀内】

現場へは人がどのようにどの程度入れる状態か？かなりやぶをこがなければアプローチできないのではないか。車で中に入れるところはあるか？

また、工事用の道路などは既に被覆されつつあるのか。その跡はわかるか。

【澁谷】

車では中には入れない。殿様道路か弥生いこいの広場の駐車場に車を置いて入る形。(黒板に地図を描き、地形や位置関係等について概略説明。)

徐々に自然に戻ろうとしている状況で、よく見ると碎石をまいて仮設道路を作ろうとしたことが分かる。放置されてブッシュになっている。伏流水が出ている場所もあり、ぬかるんでいる。

【堀内】

普通の人がここへ行っても、どこにどういったらわからないという感覚になるのではないかと。アプローチのしやすさを考える必要があるのでは。また、メンタルな部分での距離感もあると思う。意識が向くエリアでなくなっているのが現状。地元の人以前は里山として利用していただろうが、今は違うだろう。

【澁谷】

アプローチをしやすくするために必要なものに関する提案があっても良い。誰も近づけず、ただ緑があるだけの場所にしていくのは違う感じがする。

マインドマップの左下に「園路広場」と整理したが、今の考え方では散策路しかない。途中で休憩ポイントがあれば、そこから遠くを眺められたり、スターウォッチングができたりするかもしれない。散策路も人だけなのか機械も入れなければ駄目かなど、考えるポイントは色々ある。

安全管理では、この広大な土地をこのまま開放してよいかということもある。標識や立入禁止の札、便益という点では手洗いなども必要かもしれない。

【高田】

大人の生涯学習の場という考えもある。マインドマップにも「人作り」と書いてあるが、教育に関する人材育成の場でもあるかと思う。

【澁谷】

例えば町会や企業などの団体も、うまくやればボランティア活動として、この土地の利活用に参加することもあると思う。そういう時、ここで環境教育を受けるといことになるかもしれない。

個人でも、例えばバーベキューをしに来た人たちが、時期によってはアニマルトラッキング、バードウォッチング、昆虫採集もできるかもしれない。ボランティアかガイドかは別として、その時に達人と言われる人がいたら良い。

【阿部】

嶽の水芭蕉沼へボーイスカウトを連れて行き、木の名前を札に書いて吊るすことをやったが、子ども達はすごく楽しかった。経験からいけば、子ども達の教育に特別なことは何もいない。彼ら自身が遊びや色々なことを見つける。

自然教育や環境教育をやるということになれば十分やれる気がする。まずはやるのが先決。みんなでやろうということになれば、きっとうまくいく。

【澁谷】

みんなが楽しみにいくような機会が必要かと思う。

【竹浪】

子ども達が安全に入れる状態になれば、面白いことがいろいろできるかと思うが、今の状態であれば無理。子ども達が安全に自由に歩けるような歩道がある程度作るだけでも、だいぶできるようになるかとは思う。

できれば、大人も山菜採りや木を切るとか、里山的な場所になれば良いのではないか。地元の方々とも、そのように利用していけたらよい。

【澁谷】

木を切れないし、火も起こしてはいけないということで、山に入る楽しみがなくなってきていると常々思う。かつての里山の楽しみ方をしようとすれば、法も絡むので、どういう形で管理していくか、この土地のあり方そのものも考えなければならない。

【竹浪】

たき火ができる場所があってもよいと思う。

【高田】

あるがままの場所で切り口を見つけて、どう伝えていくか、仕掛ける人材が必要だと思う。

人が管理する場所と管理しない場所でゾーン分けすれば、その比較を一カ所で学習できる魅力的な場所になると思う。人も関わるとこんなにすごいぞということを我々は伝えなくてはならない。人材とプログラムは必要だが、お金をかける必要はない。

【澁谷】

かつては豊かな森があって萱場であり入会地でもあった場所だから、時間はかかるかもしれないが、やれることはやれると思う。天然更新される場所と人

工で更新されていく場所。人工林を作っていくこともできるかもしれない。
ただ、一挙にやろうとすると、イベント性のものが必要になると思う。

【阿部】

何を目指していくのか、目的が一つ決まらないと、高田さんが言おうとしたことをやるにしても難しいのではないか。里山は非常に面倒。里山の維持の面で専門家の意見もききたい。また、長い目を見た時に、将来までやれるようなものが大事だと思う。

【高田】

里山は、基本的に暮らしと密接につながっていて、その生活に利用する範囲の中の管理。薪やシイタケ作りなど、管理者が代わってやるということではなく、生活がないと難しい。

指導者育成のための有料講習会を自分の敷地内で開催し、受講者に植物の剪定やトレイル作りをやらせて、その結果、必然的に自分の施設が良くなって残っていくという、面白いやり方をしている団体がある。企業のCSRやボランティア、人材育成など、そういう手法を使った進め方もあるかもしれない。

【神（尚）】

皆さん考え方が違うので、ポイントを絞って話題に集中したほうが良いと思う。例えば自然保護を具体的に実践していくためにどうしたら良いのかとか。自然保護だけでは経済的な活用はできないなど、たくさんの意見が出てくと思う。一つ一つ詰めていった方が良いのではないか。

【澁谷】

今の段階では、あまり絞りたくない。ポイントを絞ると、どうしてもその辺の話だけに集中してしまうので。

色々なことを結びつけるものとしてアイデアが沢山あった方が良いと考える。

【神（尚）】

あの土地でできそうなことを、どんどん出した方が良いということか。ただ、例えば自然の中で管理をどうするかという話まで出ているものもあるので、その辺をどうするかだ。

【堀内】

個人的には全く管理しない方が好きだが、一般の人は整備されたところを好

むと思う。この土地に接するきっかけがあれば、道が開けるかもしれない。

【神（尚）】

自然を戻しながら人を呼び込むこともできると思うし、地形を活用して何か作ることや、お金をかけずに何かするなど、方向は色々あると思う。何も手をかけないという方向もあると思う。

【澁谷】

そういう意見も当然ある。いろんな考え方がある中で、一つのものに重点的に絞ってやろうという懇談会ではないと考えている。

【高田】

不法投棄のゴミがいっぱいある場所があるということだが、どこか？

【澁谷】

（黒板の地図を示しながら）自動車が入れるのは、殿様道路しかない。ここに上からきている沢沿いにゴミがたくさんある。

【高田】

ゴミも非常にいい題材で、逆にゴミを見せるという教育もある。倉本聡さんが地球46億年の歴史を自然の中で表現する活動をしているが、最後に行きつくところがこれになる。そういう切り口であればゴミも教育の材料になり得る。

【阿部】

（黒板の地図を示しながら、）昔のロープ塔とその小屋が残っている。そのロープ塔の車輪にミズキの木が絡んで、すごい形になっている。

【神（尚）】

その状況を見るのも、かつて人がこういうものを作ったが、何年か経つと自然にこうなっていくということを理解させるのには良いと思う。

【澁谷】

自然が戻ろうとしているということの象徴だと思う。

【蒔苗】

どういう方向かは、特別考えていなかった。

資料を見て、星を見るには展望台があれば良いなと思ったり、水の生物であれば沢のものと池のものが両方あれば良いと思ったり、林間学校であれば、泊りも日帰りもあるけれど、弥生の歴史や林業、りんごづくりなどを勉強できれば良いなと考えたり、山菜とりでは根っこから採っていく人がいれば山が荒れてしまうのではないかなどと考えて、この資料の図に枝葉をつけていくようなイメージで考えていた。

植物の保全だというならば、立ち入り禁止にしまえば自然のままで問題ないのかとも思う。適正管理だと、里山という方向にいくのかなと考える。

【澁谷】

この場所は、弘前への燃料の供給基地であったので、かなり適正な管理がされていたと思う。航空写真からわかるように、ある時期に大きく森が無くなり別のところに森が出現するような、人工的な更新を繰り返していたはず。

【阿部】

それは少し違う。ここには昔の草刈の場所があって、各集落で共有林として木を植え、そして木を切って薪や炭をこしらえていた。

薪炭林の制度は集落の人に貸しているもの。自分たちが使う薪炭をとるのがもともとの役割だったが、いつの間にか薪を使わなくなったので、許可をもらって特定の人が業者に頼み、木を切って製材所に運んだ。それは法律違反なのだが、そのために広い範囲にわたって伐採されてしまっていた。

【堀内】

大径木になってしまって、薪炭として使わないうちに製材できるくらい大きなものになってしまったというのものもあるのではないかな。

(3) 共同研究関係者との意見交換

< 利活用に係る意見等 >

【共同研究関係者 対馬】

この地区は上弥生の入植地で野菜畑だった。昔は浜街道（殿様道路）から上まで道がつながっていて、一番上ではイチゴも栽培していた。学校林もあったが、上弥生の入植地にするということで全部買収された。戦後の食糧難の時期には、藤代地区でも一時この土地に入っていた。

跡地だけに限らず、上に広がっている薪炭林と登山道と弥生いこいの広場を組み合わせ、大々的に考えて幅広く検討してもらいたい。

弥生いこいの広場から登山道へ入るようにするべきだと思う。

市民の森なのだから、ボランティアで草を刈って道を作るなど、誰でも入れるようにしていく方向で進めて欲しい。

【共同研究関係者 長尾】

今日の話を知ると、我々が3～4年も前にやったことを繰り返していると思った。振り出しに戻っている感じがして残念。率直に言って、我々と弘大が何年もかけてやってきたことを、現地を歩いたこともないような人達がこうやって集まって議論してもできるわけがない。どうすればみんなが有意義に過ごせるようになるのか、あの山を見てやっていかないといけない。

やりたいものを一つ掲げて、意見を出しながらやらないと絶対にできない。例えば市役所から、こういう形でやりたいがどうだろうかと投げかけて、その上で現地をみて話し合わないと、いくらやっても同じだと思う。

とにかく第一歩を踏み出さねばならない。

【共同研究関係者 前田】

この話が始まったのは平成19年。相馬市長が当選し、自然に返すという発想の下に、あの土地には手を付けなくなったが、弘前大学へ共同研究調査の話があり、船沢公民館も協力することになった。2007年の5月から2010年の11月までの3年間に合計24回の会議を開いた。船沢の歴史を掘り起こす作業もあったが、大半はリゾートの問題。色々な話し合いがされ、この資料に書かれている内容はほとんど出てきた。

あの場所の利活用が難しいのは、「箱物は建ててはならない。金をかけてはならない。自然を壊してはならない。」という厳しい条件があるからである。

9つの町会の三役が集まり、たくさんの意見が出されたが、3年経って、大半は散策道か遊歩道しかないという結論に至った。数年前の市政懇談会で、いつまでに決着をつけるのかと長尾さんが聞いた。だが、市役所の人をよく変わる。山下先生は、散策道や遊歩道を作るなら、トイレや休憩所、水飲み場くらいは費用を出しても良いという話もしているし、弥生いこいの広場の駐車場で農産物を販売してもいいと公園緑地課からも言われている。このことは報告書に書いてあるので、まず見ていただきたい。

条件が変わって、お金を出して大きいものも建ててもよいということであれば別だが、なかなか答えは出ないと思う。

【共同研究関係者 対馬】

嶽の「さんぽ館」のようなものではなく、もっと飛躍したものを幅広く考えて、地域の活性化を前面に押しだして企画してもらいたい。

【共同研究関係者 前田】

長尾さんが以前、遊歩道とか散歩道を作るのであれば、木に名前をつけられるような立派な木を今から残していかなばならないと言っていた。

【共同研究関係者 長尾】

散歩道は、曲がった道でも良いと思う。大きな木を切らず、一番行きやすいところを歩くようにすれば、重機を使わなくても道は作れる。

山の歩道は、歩いているうちに自然に道路になっていく。入りやすいところから人は歩くのだから、とにかく開放して人が歩くようにしなければ駄目だ。

【阿部】

無駄かもしれないが、市民がこうしていろいろ話をして、議論した中から方向を見つけ出すのと、他から言われてやるのとは、ちょっと違う気がする。

山下先生が以前、「我々が研究して方向性を出してしまったから、これ以外の意見を言ってもダメだ」と発言されていたが、そうではないと思う。

【共同研究関係者 前田】

あの土地にはU字溝が埋まっている。草が生い茂っているので、もし勝手に入って足を滑らせて怪我をすれば、市が責任を取らなければならない。だから、今の段階で入れるのは危険だということだった。

【共同研究関係者 長尾】

スキー場の跡地なのだから、U字溝などがあってもいいと思う。市役所と懇談会の委員がよく話をして結論を出した方が早めに進むのではないか。

【高田】

問題は、最終的にどう経済を伴った形と繋げていけるかということだと思う。

【共同研究関係者 長尾】

企画課ももっと前向きに考えていかないと。今までのように何も結論が出ないなら、同じことを繰り返しているだけだと思う。それならば、黙っていても木が成長して自然に返っていくのだから、跡地には何も構わない方がよいということにもなる。

市役所もやる気になって話し合いをしていかないとできないと思う。

【阿部】

みんなで話し合っ、みんなが納得してやったものは、かなり違うと思う。
みんなの了解を得ず、ただ施設をつくったものは、何の役にも立たない。

【共同研究関係者 長尾】

「どうぞ跡地へ入ってください」といっても、誰も行かないと思う。市が何かをやって、みんなにあの土地を知ってもらえば、あの山が生きてくると思う。こういう場所だと知ってもらうことがまず大事。

例えばボランティアで歩道を作って、そのことを新聞などで知らせれば、みんなが注目して入りたいと思うだろう。最初は一年に100人くらいしか来ないとしても、次の年、その次の年とどんどん増えていくと思う。

そういう場所になって初めて、あの場所が有意義に使えるようになる。

【澁谷】

この懇談会の目的は、あの土地に人を入れることが大前提。直近としては、人を入れて、あそこに市民の目を向けなければならないという話だが、将来的な話を含めれば色々なことが考えられるので、今話をしていたところ。

【阿部】

みんな決めてやったら、市で決めたのとは答えが違うと思う。

【共同研究関係者 長尾】

そのくらい自信があるなら、この懇談会でちゃんと方向を決めてやったほうが良い。陰から見ているので、良かったなと言えるような山を作って欲しい。

【共同研究関係者 前田】

あの場所の一つの魅力は「弥生いこいの広場」があること。年間4万人くらい来ているので、これを活用してやるような方向で考えなければならない。

【澁谷】

広場の駐車場を使って何かできないかということも模索する予定で、とにかく人を入れて判断をしようと考えていた。ゴミも題材になると話があったが、いきなり開放して不法投棄の巣窟になってはまずい。また、長い目で見た時の森づくりや、表土を剥された土地をどうすればいいかということもある。

【共同研究関係者 長尾】

あの時はブルドーザで道路も付けたし砂利も敷いた。ある程度風化して水も土も流れ、平らにはなっている。いずれ黙っても自然に戻るが、ヤナギやハンノキなど、生えやすい木しか生えない。

弥生にはブナがない。いこいの広場には植えてあるが、百沢から少しこちらにはない。ブナはある程度高いところでなければ成長しないから、上に行かなければならない。下の方にはナラの木やハンノキしかない。

【阿部】

ブナを切ればナラが先に復活する所と復活しない所がある。ナラが復活しなければブナが復活する。だから、弥生にも昔はブナが結構あったと思う。

【共同研究関係者 対馬】

5合目から6合目のあたりにブナがある。だから岩木山は、登山道そのものが学習の場になると思う。

昆虫、カブトムシなどは、稲わらを敷いておくと結構繁殖する。それと壁倉沢の川、いこいの広場の方の川、大黒沢川には、結構イワナがいて釣りに来ている。トウホクサンショウウオもいる。子ども達のいい教材だと思う。

【澁谷】

これで現地に入る楽しみが増えた。人を入れる道をどういう形でやるか、どこで遊ばせるかなど、場所のイメージができてくると思う。これに、この前から話してきたことを結び付けていければ、具体性のある提案ができると思う。

道を通して人を入れて云々ということはやりたいし、市役所でもやろうとしている。ただ、短期間ではできないものもたくさんあると思う。

【共同研究関係者 長尾】

問題が多いから市のほうでも開放できないでいると思う。だからといって、開放する前に、せっかく作ったコンクリートのものを壊して土を盛るとすれば、木も切らないといけないので、何年もかけて成長してきた木がまたダメになる。

自然というのは、植林したものでなく自然に生えてきたものが自然というのであって、植林したのならば植林の山にすぎない。

<安全管理等について>

【共同研究関係者 長尾】

人が入る時に一番怖いのはマムシ。ハチも注意しなければならない。ハチは触らないと害を及ぼさないから大丈夫だと思うが。

【澁谷】

そもそもその危険性がわからないという人もいるかもしれない。ゲートをとって人を入れるということは、そこまで考えなければならない。だから安全管理ということが叫ばれている。

あの土地に人を入れるには、整備より先に、その点をまずしっかり考えないといけない。そのためには注意看板だけで済む話なのか、それともちゃんと具体的にレクチャーしなければならないのかということも考えねばならない。

【阿部】

岩木山を守る会には、私も含めて日本自然保護協会の自然観察指導員がいるが、いつも言われているのは自然における危険。ウルシやマムシ、ハチなど。その点については、今後、当然検討しなければならない。

非常に貴重な意見だ。頑張れと尻を叩かれた思いだ。皆で知恵を絞ろう。

【共同研究関係者 対馬】

ところで、子どもたちを対象にした場合、ハチに刺されるということもあるかもしれないが、岩木山を考える会の見学会などでは保険はかけているのか？

【竹浪、阿部】

毎回、保険をかけている。

【澁谷】

イベント的にやる時はボランティア保険などに入れるが、そういうものばかりではない。個人で山菜採りに入ってくる人たちの方が怖い。いくら自己責任とはいえ、市の土地である以上、全て自己責任という訳にはいかないだろう。

【共同研究関係者 長尾】

ハチがないかなど、周辺を調べて管理する人が必要になるのではないか。

【高田】

八森（秋田県八峰町）では町有林があって、事前予約制で町の人が案内しないとそこに入れないという仕組み。地元の人が学んで研修して、有料ガイドとして入らざるを得ない。こういう方法もある。

【澁谷】

貴重な話を含めて、尻を叩かれたようなものだから、この点を肝に銘じて、なるべく早くあの土地に人を入れるような方向性で市へ提案していきたい。そのために、現地へ入ってからもう一回考えてみたい。

(4) 議論を踏まえた整理

【堀内】

情報をいっぱい出すことが大事だと思うが、材料が多ければ多い分だけ収束が大変だとも感じる。やはり目標が先かという気がする。色々思うところもあるが、まとまりきれしていない。

【神(尚)】

地元の先輩方が検討してきた時と同じ制約の下で議論をするならば、同じ方向に行くかもしれない。もちろん別の意見が出るかもしれないが、この土地への基本的な考え方は今も変わっていないのか、市にも尋ねたい。

制約があるならば、それに基づいた議論をしないといけない。目的をある程度明確にしながら進めたほうが、長い時間をかけずに済むかもしれない。

【蒔苗】

この土地は子ども達が学習できる場になれば良いと思っていた。自分が子供の頃のことを考えて、小学校の岩木山登山ができれば、そこで自然観察や人工の森と自然の森との違いの学習ができるかなと思った。

ただ、方向性を決めずに色々な意見の中から方向性を見つけていくということだったので、もともとの考えを捨てて考えるようにしていたが、一つの方向を決めて進めていくのであれば、私も改めて考えなければならない。

【高田】

やる以上はどう持続的に活動していくか、基本的に持続可能ということが大事。環境と経済のバランスをとった形で、どうしていけばいいか考えるべき。

持続可能のためには、教育であってもレクリエーションであっても、経済とどう結びつけるかという工夫が必要。

【阿部】

個人的には、岩木山が孤立して岩木山の周りの生物や植物がいなくなっているので、これを少しでも阻止しながら岩木山の自然や生物たちを守りたい。これが私の本心。ここに出てきてどうしていけばいいか、少し戸惑っている。

【竹浪】

今まで取り組んでこられた方々の話を聞いて、本当に地元の方が支えてくれているのだなということを感じ、心強く思っていた。

そういう方々との繋がりをきちんと大事にしていけば、この事業というのは持続可能でいけると思う。こういう連携をもっと活発にしていきたい。

【久保田】

私たちの年代は、団塊世代の人達が良い眺めを見ながら、お茶を飲んで、自然を楽しみ、帰りには農産物を買求める、というのが良いと考える。

だから、農産物を販売するために、いこいの広場の駐車場を借りることの了解をもらったし、こういうふうに遊歩道を作って、ここに休憩場所を作れば良いなという自分なりの考えも頭にあって、それが頭から離れない状況にある。

自然を破壊しないように木を伐採しなくても遊歩道を作る方法はあると思う。

【前田（聖）】

私の年代は子どもを題材にして考えてしまう。結局、子どもが楽しめるものがあれば親は必ずついていくし、子どもを遊ばせている間に遊歩道を散策したり、そこで野菜やリンゴを売っていれば買ったりすると思う。面白いものがあれば、みんなで行こうということになるかと思う。

ただ、正直なところ、自然を残して子供に見せるだけでは、みんな来ないのではないかと思う。親目線で考えると、子ども達が楽しめるものがあれば、行こうということになると思う。

【澁谷】

ポイントを絞らないからこそ、こういう話ができる。色々な話が出たが、それぞれ目線が違う。これで実際に現地に行けば、かなり具体的なイメージになってくるはず。今まで話をしてきたことを、どう結び付けていくか模索したい。絵空事の話をしてきたが、実はこれが大事。今のようなことを話しておかないと現地に行った時にものが見えなくなる。早く雪がとけて現地に入れれば良い。

【阿部】

自然の中で心が洗われる思いがすると話をした人がいたが、こういう新しい感覚的なものを、いろんな人から掘り起こしていければ良い。

5. その他

<メンバーから>

- ・竹浪氏から弥生スキー場跡地の植生回復調査に関する資料提供があった。
- ・併せて、専門家（生態学、防災等）の意見を聞く機会の設定について要望が出された。これについては、座長から、適切な時期を捉えて話を聞く機会を設定したいと考えている旨の回答があった。

<事務局から>

【高木企画課長】

（今後の進め方等についての補足）

- ・共同研究報告書の最後の部分で、懇談会を設置し、地元の方との議論や活動等を経て考えていくことが提言されている。プロセスを省略している部分もあるが、これに沿った形で懇談会を開催しているので、ご理解いただきたい。
- ・次年度は利活用の提言を受け、それを踏まえて市としての方針を形にし、皆さんとやりとりしながら、この土地の利活用にできるだけ早く取り組みたい。

（平成24年度予算案について）

- ・懇談会の開催に係る経費の他、遊歩道の整備費用200万円を計上した。
- ・遊歩道の整備について、予算案として市の考え方は持っているが、これ押し付ける考えはなく、この予算をうまく使えるように議論していきたい。
- ・24年度には、安全対策や完成後の管理体制も検討しながら、人が入れる部分を開放していきたい。

6. 閉会

以下のとおり事務局から事務連絡の上、懇談会を閉会した。

- ・23年度内の懇談会は今回が最後。
- ・次回日程は新年度に改めて調整。雪が少なくなった頃で調整を図りたい。

<終了>